

# 社協を母体として民家に開設した通所型サービスBと多様な活動が創出された事例

社会福祉協議会が民家を一軒借り受け、通所型サービスBを地域の活動者が担い、更に地域で必要とされる活動を生み出している。地域に拠点が出来たことで地域活動が活性化された事例。



## 社協を母体として民家に開設した通所型サービスBと多様な活動が創出された事例

藤井 友美 白河部 りつ子 笠井 志保  
社会福祉法人 草加市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター



草加市社協  
イメージキャラクター  
ウエルちゃん

さかえーる 週間予定表	
月	おしゃべり倶楽部
火	ルーエ さかえ
水	野ばら会
木	みんなの保健室陽だまり
木	ためきのおうち
金	キャリア創作カフェ
金	認知症サポーター 草加 柿とロバの会

平成28年度市社協重点課題として、協議体設置を見込み、「社協を母体とした地域拠点の設置」が盛りこまれた。

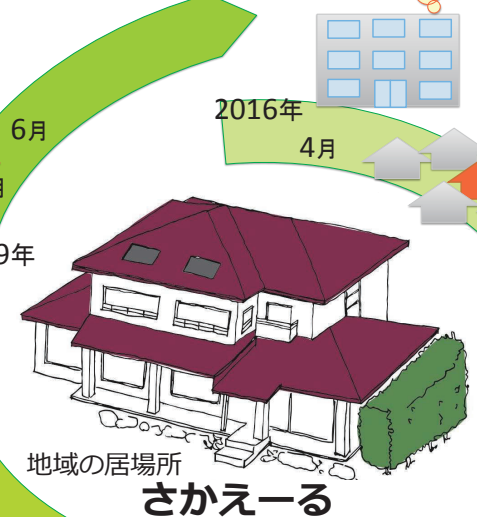
生活支援Coが、空き家を探して歩いた。社協内ヘルパー事務所から候補が挙がった。

**ルーエ さかえ 新設**  
ルーエさかえを開設したことで、平日は、いつでも来られる場となった。参加する人が、自由に過ごせる。

**子どもの居場所 ためきのおうち 新設**  
担い手は元学童指導員の高齢者が中心。子どもの支援を通して、高齢者活躍の場に。

**障がい者の就労支援 キャリア創作カフェ 新設**  
地域住民との交流により、自己肯定感を高め、社会へはばたく準備の場。

**認知症サポーター 草加 柿とロバの会 新設**  
認知症養成講座修了者の活躍の場。寸劇や映画会による啓発を行う。



**通所型サービスB**

- おしゃべり倶楽部** (月): 生活支援Coが、ボランティアの有志を募り、新設。
- 野ばら会** (水): 以前の拠点が建て替えとなり、活動縮小していたが、さかえーるにて再活性。
- みんなの保健室 陽だまり** (木): 看護師中心の団体。市内で活発に活動していたが、拠点がなかったことが課題だった。



### まとめ

本事例は、社協で借り上げた民家「さかえーる」にて、通所型サービスBから開始し、その後も多くの活動が創出された、**共生型常設型の居場所**である。生活支援Coは、民家の選定から介入し、借り上げた民家にて地域住民による助け合い・支え合いが可能となる**仕組みづくりをコーディネート**した。

さかえーるにおける支え合いの仕組みの特徴としては、次の3点があげられる。① さかえーるというハードの存在により、サロンの創出や担い手の発掘といった**資源開発が容易**となった。② 地域住民を中心とした運営委員会を設けることで、**ネットワークが構築**された。③ 運営委員会において地域課題が出されることで支援ニーズが明確となり、同時に課題解決に向けた取り組みも住民主体にて行われるようになり、**二一スに合わせた多種多様な取組が創出**されるようになった。

①居場所・サロン・通いの場

①居場所・サロン・通いの場